

# 奈良県の地震

## 【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

## 【奈良県地震概況】

## 【地震一口メモ】

大きな地震が発生した場合の防災上の呼びかけについて

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。

また、2016年熊本地震緊急観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

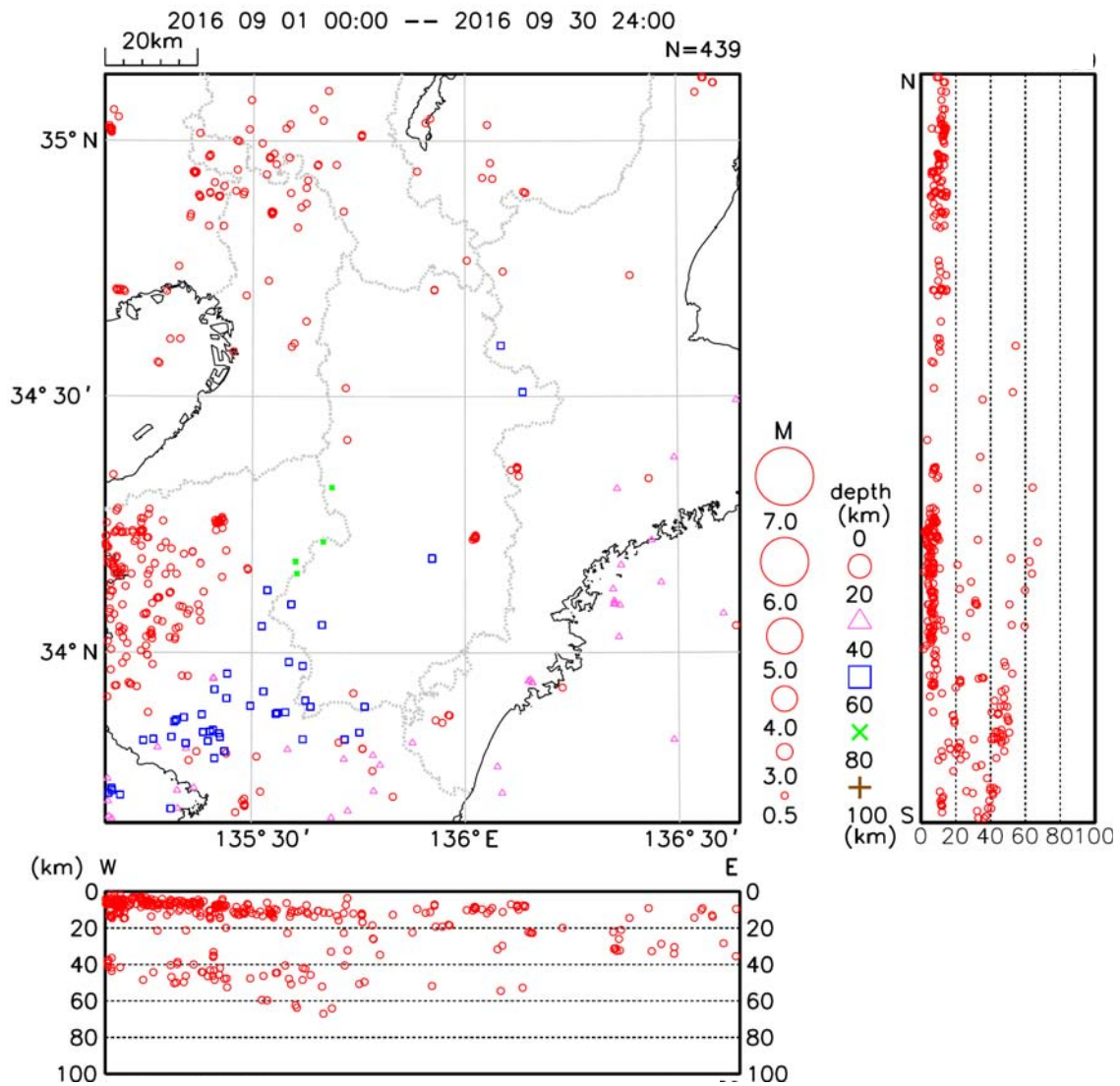
※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台  
2016年9月

## 【奈良県の地震活動図】

### 震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



## 【奈良県地震概況】

奈良県内で9月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

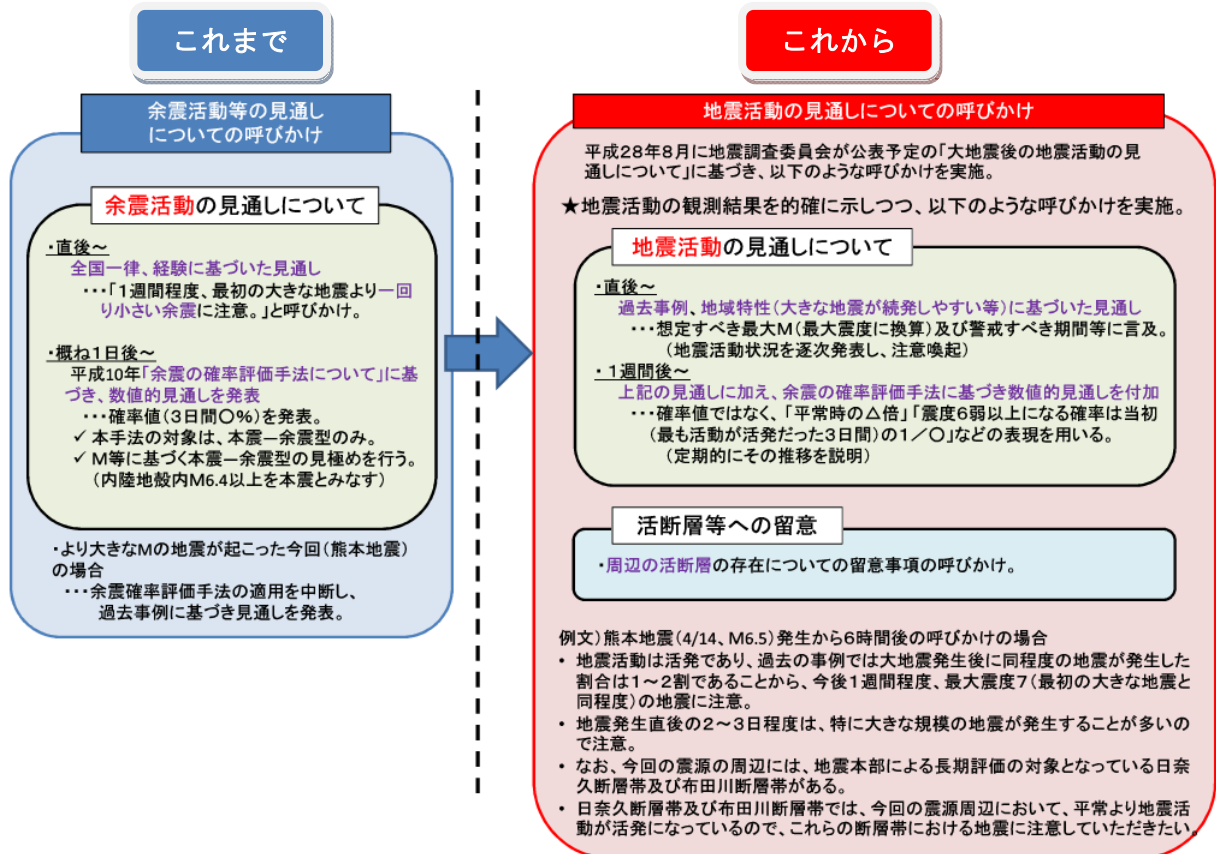
# 【地震一口メモ】

～大きな地震が発生した場合の防災上の呼びかけについて～

これまで、気象庁は、平成10年に政府地震調査研究推進本部地震調査委員会が取りまとめた「余震の確率評価手法について」に基づいて、余震確率を発表するなど防災上の呼びかけを行っていました。

しかし、平成28年(2016年)熊本地震においてこの手法が適用できない事象が発生したことから、同委員会は、余震確率評価手法の改良、大地震後における地震活動の見通しや防災上の呼びかけ等の指針を検討し「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」の報告書を8月19日に公表しました。

この報告を受け、気象庁では、大地震後の地震活動の見通しと防災上の呼びかけについては、これからは、図の赤枠部分に示すとおり行います。



※図中の“M”はマグニチュードを示します

図 「大きな地震が発生した場合の防災上の呼びかけ」の概要と変更点